

平成12年(2000年) 10月31日 火曜日

産業新聞

李前總統「出席できず残念」

ビデオで
メッセージ
台湾側、対応に不満

長野の国際会議

日本と台湾の有識者が日本関係やアジアの安全保障問題について話し合う国際会議「アジア・オーラン・フォーラム」が三十日、

「新世紀への知的戦略」をテーマに長野県松本市で二日間の日程で開幕した。同会議への出席を希望しながら、訪日が実現しなかった李登輝前總統はビデオメッセージを寄せ、「諸情勢のため、自ら出席できなかっ

た」とは残念の至り」と述べ、暗に日本政府の対応に不満をあらわした。

ビデオメッセージは十五

分間にわたり、グローバル化にともなう台湾の役割などについて演説している。

特に安全保障の観点から、李登輝前總統は「人類の間には生じた衝突、論争あるいは紛争は安易に武力に訴えても根本的な問題を解決することは不可能であり、單

に恨みや悲しみ、後悔、いやすことのできない傷跡を残すのみとなる」と述べ、台湾問題解決に武力行使を希望していたが、前總統として前總統は同会議出席を希望していたが、前總統をめぐっては、「一私人」(ビザ)発給に難色を示し、日本政府も査証

を「千古の罪人」と位置付ける中国側は、「李登輝氏は祖国分裂をたぐみ、両岸統一を阻むための行動を続けていた。いかなる身からも、日本は独立国家の尊嚴を守るべきだ」と、中国に配慮する日本政府に強い不満の声が噴出した。

分、名目であっても中国と

外交を持つ国を訪問するこ

とに断固反対する」と強く反発。日本政府も査証

実現しなかった。しかし、同会議出席の台湾側関係者